

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|-------------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3090100417 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人紀伊松風苑 | | |
| 事業所名(ユニット名) | グループホーム なるたきのさと | | |
| 所在地 | 和歌山市園部364番3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年11月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年1月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detai_2011_022_kani=true&ji_gyosyoCd=3090100417-00&PrEfCd=30&Versi onCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 和歌山県和歌山市手平二丁目1-2 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年12月11日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの「これまでの暮らしの継続」を大切にしながら、これからの日々を共にゆったり自分らしく過ごすことができるよう、本人・家族・職員・関わる人、皆がチームとなり、支え合える関係づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然環境の中で、利用者一人ひとりが自分らしいふつうの暮らしをゆったりと送る事ができるように、職員や関係者は共に寄り添いながら支援している。法人内診療所の時宜を得た活用により、利用者は安心して生活する事ができる。又事業所全体が地域の一員であり、地域とのつながりが不可欠であるとの認識のもと、日々の活動上はもちろんの事、事業所の行事への招待や事業所から地域に出向く事等を通して活発な交流を持っており、より一層の関係強化を目指し、具体化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で考えた事業所の理念を、リビングや介護職員室に掲示し、日々意識するとともに、毎月開催している部署会議では、ケアサービスに反映されているか振り返りを行い実践に繋げている。 | 地域の一員として「ふつうの暮らし」を送る事を支援するという、職員全員で作り上げた理念を管理者と職員は銘記し、ケア実践の基本としている。理念は利用者の手に成るものであり、理念は事業所全体で共有されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に実施している散歩中の挨拶には始まり、地域の祭りに参加したり、事業所の祭りに招待している。また、スタッフがボランティアとして地域に出向くなど、日々の繋がりを感ずる事が出来るよう取り組んでいる。 | 散歩時の近隣の方々との交流は日常的であり、近くの知的障害児の学園とは職員を含めて折々に合同で散歩を楽しむ等交歓を深めている。又地域の祭りへの参加や、ボランティアの積極的受け入れを進めており、事業所の催す夏祭り等の行事には地域の方々の多数の参加が実現している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 中高生の職場体験や専門学校生の実習受け入れ、併設事業所で開催される家族介護教室等を通じ、認知症の方への理解や支援方法を知って頂けるよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度開催し、日々の様子や研修報告のほか、毎回テーマに沿って会議を進め、様々な立場からの意見や助言をいただき、それらが入居者様のより良い暮らしに反映されるよう取り組んでいる。 | 2月に1回開催する運営推進会議には、家族代表、長寿会連合会長、包括センター職員、法人職員等が出席し、くつろいだ雰囲気の中でテーマに沿って話し合いが行われている。そこでの意見や要望は職員間で十分に検討を重ね、できる事から速やかに実行に移している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎月の入居状況報告や相談事があれば、電話や訪問等により意見をもらうことに努めている。地域包括支援センターとは密に連絡を取り、情報交換を行っている。 | 市への月毎の状況報告や運営に関する相談等は、直接出向くか電話に依っているが、その際には事業所の実情やケアサービスの取り込み状況を積極的に伝えている。又、利用者の認定調査の為の訪問も連携する良い機会となっている。包括センターとも密に連携する等行政との協力関係が更に深まるよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人の身体拘束廃止委員会や部署会議、外部研修で定期的に学ぶ機会を設け、拘束について事業所全体で正しく理解し、自由な暮らしの支援に努めている。1階入口は防犯上施錠しているが、内からは誰もが開けることができ、希望時はいつでも外出できるよう支援している。 | 事業所職員もメンバーとなっている法人の身体拘束廃止委員会や、定例会議、内部及び外部研修等を通して、代表及び全ての職員は禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。見逃しやすいスピーチロック等についても職員間で常に注意を払いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内、施設外研修で知識と理解を深めるとともに、定期的にスタッフ間でケアの振り返りを行い、正しい認識と気づきの大切さを学ぶことで、徹底して虐待防止に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設内、施設外研修への参加と、成年後見人制度を活用している入居者様を通じて、学ぶ機会を設けている。また、運営推進会議にて、地域包括支援センターの協力のもと家族への周知を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は、契約書と重要事項説明書を分かりやすく提示し、不安や疑問点にはその都度十分な説明を行い、理解、納得、同意を頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や電話、運営推進会議、毎月の便りで生活の様子を出来るだけ詳しく伝え、何でも言ってくれる雰囲気づくりに努めるとともに家族の声は必ず記録し、職員全体で共有し、運営に反映させている。また、苦情受付窓口も設置し、意見を表せる機会を設けている。 | 面会や電話等での連絡の際に、利用者や家族等が意見、要望を出しやすいよう、利用者の生活の様子を定期的に伝える等工夫している。又運営推進会議は家族等が外部者に意見、要望を表明できる機会となっている。出された意見、要望を詳細に記録し、職員全員で共有しながら運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月開催する部署会議、日々のコミュニケーションで活発な意見交換を行えるように努め、必要に応じて企画書を作成するなど、出された意見、提案を一つでも多く反映させることが出来るよう心掛けている。 | 月1回の定例会議や日々の申し送り等で出された意見や提案は、事案により直ちに実行するか、企画を立案して上申し実現に繋げている。代表者や管理者は職員が意見や提案を出しやすい環境づくりに努めており、得られた意見や提案を運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の個人面談や提出された目標設定レポート等を基に、努力や実績、勤務状況を把握し、自己アピールや要望を直接伝えられる場を設けることで向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人職員全体の質の向上を目指し、段階に応じた外部研修を受講する機会を確保するとともに、職員から希望した研修への参加もバックアップしている。学んだ内容は必ず現場にフィードバックしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的に他事業所と勉強会や意見交換、相互訪問などの活動を行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には必ず本人・家族と面談を行い、生活上の困りごとや様々な不安・要望など本人の思いを受け止め、入居後も安心して自分らしい生活が継続できる関係づくりに取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前面談では、受容的姿勢で様々な思い、声に耳を傾け、今後の方針について話し合いを行っている。些細なことも相談しやすい雰囲気づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 十分な情報収集を行い、潜在化している事柄を含め、今必要なサービスは何か見極めながら段階的な支援の提案、提供に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の希望や能力に応じ、役割を持っていただきながら生活活動を共同で行っている。個々の経験や知識から学ぶ姿勢で関わり、支え合える関係づくりに取り組んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 連絡を密にし、本人の現状やこれまでの暮らしについての情報を共有し、一方的でなく共に本人を支えていける関係づくりに努めている。面会が少ない家族等には、電話や手紙で伝えたり家族の協力が必要なことを説明し、訪問していただけるよう働きかけている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族、親戚、知人、友人との再会を大切に、時には家族の協力を得ながら、馴染みの場所、希望される場所への外出等により、これまで大切にされてきた関係、記憶を断ち切らない支援を心掛けている。 | 利用者の希望する馴染みの場所への外出は、基本的には家族等に依頼して実現しているが、職員が対応する場合もある。母校や往時の商店街を訪れる等で懐かしい記憶を呼び戻している。又知人や友人の訪問が増えるように、訪れやすい雰囲気づくりに努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個性や性格、認知症状を考慮し、孤立することなく、その時、その場に合った入居者様同士の関わりを見極め、フォローしながら暮らしを楽しめる支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても希望があれば情報提供やサポートなどのバックアップを行い、移り住む先の関係者とも連携し、本人、家族にとって不安のない生活が継続出来るよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話や関わりの中での言葉を大切にするとともに、言葉に出来ない思いをくみ取れるよう努力し、本人の視点に立って話し合い、取り組んでいけるよう努めている。 | 利用者同士の会話や日々の行動から得られた気づきを必ず記録する事で、利用者一人ひとりの思いや意向を職員間で共有している。意思疎通の困難な利用者についても、一部の意見や考え方で決めつける事はせず、家族等の情報を参考にしながら「本人はどうか」という視点に立って話し合いを重ねている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族からの情報は勿論のこと、これまでのサービス利用の情報提供や友人、知人など関わりがあった方々からも様々な情報を収集し、馴染みの暮らしの把握に努め、日々のケアに活かせるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々変化する状態に気づき対応できるように広い視野を持ち、総合的に現状把握できるように、観察、記録、情報共有に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向と現状に沿ったプラン作成が行えるよう、職員全員で話し合いを重ねるとともに、個々の担当する入居者様のプラン作成に関わっている。また、変化に応じて、臨機応変に見直しを行うよう努めている。 | 担当職員を含め全員で検討し作成した仮の介護計画を本人や家族等に提示して話し合いを行い、本人や家族、医師等関係者の意見やアイデアを取り入れた介護計画としている。又状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 1時間毎に記録するホームオリジナルの介護経過、24時間シート、気持ちシートなど様々な個別記録を徹底するとともに、口頭での引継ぎを正確に行い、情報共有に努めている。その都度話し合い、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族から、その時々生まれる多様なニーズに柔軟に応えられるよう、法人、職員間で話し合いを重ね、満足度を高められる支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事への参加、法人又は事業所主催の行事等により、出来るだけ地域の中に出掛けたり交流する機会を設け、豊かで楽しい暮らしが継続できるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 継続したかかりつけ医への受診や希望があれば、法人内の診療所を紹介するなど、本人、家族の意向に沿ってかかりつけ医を決定している。専門医へは家族の協力のもと受診している。 | かかりつけ医については、本人及び家族等の希望により、法人内診療所や外部の医療機関の医師を選定している。法人内診療所の受診は週1回あり、外部の医療機関への受診は家族等の協力により実施されている。情報提供が双方向でなされており、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設事業所の看護職員と密に連携を取り、状態変化にいち早く気づき、報告、相談することにより、早期に適切な対応が行えるよう努めている。法人内診療所からの協力体制も整備している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人のストレス、不安の軽減を図れるよう、家族、医療機関と連携し、支援方針の提供や早期退院に向けての情報交換に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化、終末期の対応については、契約時にホームとしてできること、できないことを説明している。状態変化はその都度報告し、定期的に家族の希望や意向を伺い、話し合いを重ねながら本人にとって一番良い環境で過ごせるようチームで支援に取り組んでいる。 | 重度化や終末期に事業所としてできる事は契約時に説明している。段階に応じて本人、家族等と話し合い意向を確認すると共に、医師等の関係者と方針を共有しチームで支援している。今年度も実際に看取りを行ったケースがある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 落ち着いて対応できるよう、緊急連絡体制や連絡方法の手順を明示するとともに法人、施設内研修、マニュアルの活用などにより、定期的に学ぶ機会を持ち、実践力を身に付けるよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練と法人、施設内研修により、防災意識を高めている。消防署立ち合いの訓練には近隣の方々にも参加協力をお願いし、地域との協力体制を築けるよう努めている。 | 災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方針を全職員が身につける為、年2回避難訓練を昼夜を想定し実施している。また、避難訓練では消防署の立ち合いを受けると共に利用者と職員が一緒に参加している。地域の人々については、昨年度参加が得られたが、今年度は事前に伝えたものの参加は得られなかった。 | 法人や事業所の職員だけでは限界がある為日頃から地域に働きかけ、事業所の災害対策を伝えながら、協力体制を築いていく事が必要である。運営推進会議を活用し、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら、避難訓練等を実施する事を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 状況に応じた声掛け、対応を心掛け、プライバシー保護や尊厳を大切に支援に努めている。部署では接遇について振り返る機会を設け、個人の重要書類は鍵のかかる書庫で外部に漏れないよう保管している。 | 職員の利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りやプライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認しながら改善に向けて事業所全体で取り組んでいる。個人情報については責任ある取扱いと管理を徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 決めつけや閉じられた質問、問いかけを行わないよう意識するとともに、一人ひとりの性格を把握し、日常のさりげない会話の中でも幅広い選択肢を用いて自己決定、表現ができるよう工夫している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々の思いやその時々体調に合わせてながら、出来る限り本人の意思を尊重した支援を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の衣類を個々で選んでもらったり、染髪など個々の美に対するこだわりを大切に、いつまでも自分らしいおしゃれが楽しめることで、生活の安定へと繋がるよう家族の協力のもと支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付け、食材切り、片付け等、個々の持っている力を活かし、楽しみながら食事やおやつ作りに携わってもらっている。希望に沿った外食や外注などを楽しめる機会も設けている。 | 利用者に直接希望を聞く事に加えて、会話の内容やテレビの料理番組を参考にしながらメニューを作っている。利用者一人ひとりの力を活かし、利用者と職員と一緒に買い物や食事、おやつづくり、後片付け等を行っている。外食や外注品の他自家栽培の野菜等をうまく取り入れる事で、食事が楽しいものになっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事・水分摂取量、毎月の体重測定を実施することで、記録、把握を徹底している。一人ひとりに合わせた食事形態の工夫や嗜好食品、間食、分食による栄養摂取量の確保にも努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 声掛けや見守り、一部介助により、毎食後の口腔ケアを定着させている。日頃の関わりで、口臭や口腔チェックをさりげなく行い、清潔保持に努めている。また、定期的に口腔ケアについて研修を行うことで、正しい知識の中で、実践に活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄状況を記録し、個々のタイミングに合わせた誘導や確認を行うことで、失敗が軽減できるよう努めている。また、重度化しても可能な限り便座に座ることで、気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 排泄時間や頻度だけでなく排泄量を記録する事で、トイレ誘導が適確なものとなっている。パッドやリハビリパンツを使用する場合は、根拠を明確にし、一人ひとりについて常に見直しを行いながら、トイレでの排泄や排泄の自立にむけて支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況の把握と安定した食事、水分の摂取、一人ひとりに適した活動支援により、生活リズムを保つことで便秘の予防に努め、必要に応じて家族とも相談しながらスムーズな排泄が継続できるよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 体調を見ながら、本人の希望や状況に合わせた臨機応変な入浴支援を心掛けている。羞恥心、恐怖心、負担感に配慮した声掛けを行い、安心して自分のペースで入浴を楽しめるよう努めている。 | 結果的に夕方以降に入浴する利用者が多くなっているが、制限は全くなく、希望に応じていつでも入浴できる態勢を取っている。少なくとも2日に1回の入浴を目安にしており、入浴を拒む利用者については無理強いする事なく、言葉かけ等の対応に工夫を凝らしながら入浴の実施に繋げている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の生活習慣や年齢、体調を考慮し、バランス良く休憩して頂くことで、夜間の安眠に繋がるよう支援している。そのためにも室温をはじめ、職員の静かな対応などの環境面にも気を配るよう心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬状況については、投薬管理表でいつでも確認できるようにしており、症状や薬剤の変更があれば口頭での引継ぎと記録により周知徹底している。投薬時にもチェック表により、服用忘れや誤薬防止に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの趣味や能力、得意とすることを把握し、役割や楽しみを持ち行って頂くことで、生きがい、楽しみへと繋がるよう支援している。また、日々の関わりの中から新たな楽しみ事を発見できるよう努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 日常的な散歩から、入居者様の希望に沿ったショッピングや季節に合わせた外出支援を行っている。また、家族の協力による外出の機会もあり、出来る限り本人が希望される外出が実現できるよう取り組んでいる。 | 事業所周辺の散歩は日常的に行っている。利用者一人ひとりの希望を聞き、食材や衣料品、花等の購入と一緒に出かける事も多い。又普段は行けないような場所へも、事業所の行事に組み入れるか、家族等の協力を得て外出が実現しており、利用者、職員双方にとって気分転換の機会となっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持は、本人、家族との相談により、希望される方には所持していただき、外出時には本人の能力に応じて、物品の選択や支払いの支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族、知人からの電話の取り次ぎや本人から希望があれば、やり取りできるように努めている。自分から手紙を書きたいという希望はほとんどないが、職員が関わり、一緒に書いた年賀状を大切な方に送るなど、関係を繋ぐ支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | どこからでも四季折々の景色が楽しめるよう、設計されている。また、暖色系の家具を配置し、温かみのある雰囲気づくりを行い、窓際には花を植え、季節に合わせた装飾を行うなど、居心地良く過ごせる工夫を行っている。 | 空調設備により共用の空間の温度、湿度等は快適に保たれているが、毎朝窓を開けて空気の入れ換えを行う事で心身共のリフレッシュを図っている。窓の外の景色と共に窓際に置かれた花からも利用者は季節の移ろいを感じる事ができる。新聞を読んだり、談笑したりと利用者は思い思いに、居心地良く過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとりの過ごしやすさを考え、レイアウトを工夫している。廊下にもベンチ、椅子を配置し、死角を利用することで、独りで静かに過ごせる居場所づくりも行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の協力のもと、思い出の品や使い慣れた馴染みのものを継続して使用されたり、好みの家具を配置するなどして、本人にとって落ち着き、安心できる空間となるよう工夫している。 | 本人や家族と相談して、たとえ小物であっても使い慣れた物や好みの物の持ち込みを依頼している。整理ダンス、籐椅子、家族の写真、化粧品等が傍に置かれ、その人らしく暮せる居室となっている。職員は共同生活の中の個室の意味の大きさをわきまえ、プライバシーの保護に常に注意を払っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の「できること」、「わかること」を日々の観察、関わりを通じて把握し、安全を確保しながらフォローを行うことにより、自分の力を活かして行動して頂けるよう支援している。また、不安や混乱を最小限に出来るよう居室入口に本人が解りやすい目印を付けるなど、環境面の工夫を行っている。 | | |